

産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ (第2回) 配布資料

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu31/siryu/000019199_00021.htm

記事ページ本文

現在位置

トップ

>

政策・審議会

>

審議会情報

>

科学技術・学術審議会

>

産業連携・地域振興部会

>

科学技術・学術審議会 産業連携・地域振興部会及び大学研究力強化部会 産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ

> 産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ(第2回) 配布資料

産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ(第2回) 配布資料

1. 日時

令和8年7月30日(木曜日) 13時～15時

2. 場所

経済産業省本館17階 国際会議室 及び オンライン

3. 議題

前回議論の振り返りと産業競争力・研究力中核大学群に求める要件

有識者からのプレゼンテーション

自由討議

4. 配付資料

00_議事次第 (PDF:133KB)

01_科学技術・学術審議会産業連携・地域振興部会及び大学研究力強化部会産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ委員名簿 (PDF:107KB)

02_産業構造審議会イノベーション・環境分科会イノベーション小委員会産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ委員等名簿 (PDF:247KB)

03_前回議論の振り返りと産業競争力・研究力中核大学群に求める要件 (PDF:1.6MB)

04_有識者プレゼンテーション資料(一般社団法人日本経済団体連合会) (PDF:1.1MB)

05_有識者プレゼンテーション資料(三井不動産株式会社) (PDF:4.7MB)

お問合せ先

科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課

研究振興局 大学研究基盤整備課 大学研究力強化室

PDF形式のファイルを御覧いただく場合には、Adobe Acrobat Readerが必要な場合があります。

Adobe Acrobat Readerは開発元のWebページにて、無償でダウンロード可能です。

(科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 / 研究振興局 大学研究基盤整備課 大学研究力強化室)

ページの先頭に戻る

文部科学省ホームページトップへ

科学技術・学術審議会 産業連携・地域振興部会及び大学研究力強化部会
産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ(第2回)
産業構造審議会 イノベーション・環境分科会 イノベーション小委員会
産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ(第2回)

議事次第

令和8年7月30日
13:00～15:00
ハイブリッド開催

1. 開会

2. 議事

(1) 前回議論の振り返りと産業競争力・研究力中核大学群に求める要件

(2) 有識者からのプレゼンテーション

①一般社団法人日本経済団体連合会

小川 尚子 常務理事

②三井不動産株式会社

湯川 俊一 イノベーション推進本部 産学連携推進部 部長

(3) 自由討議

3. 閉会

配布資料 一覧

- 資料 1 科学技術・学術審議会産業連携・地域振興部会及び大学研究力強化部会産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ委員名簿
- 資料 2 産業構造審議会イノベーション・環境分科会イノベーション小委員会産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ委員等名簿
- 資料 3 前回議論の振り返りと産業競争力・研究力中核大学群に求める要件
- 資料 4 有識者プレゼンテーション資料
(一般社団法人日本経済団体連合会)
- 資料 5 有識者プレゼンテーション資料
(三井不動産株式会社)

資料 1

産業競争力・研究力中核大学群に関する WG

(第 2 回) R8.7.30

科学技術・学術審議会 産業連携・地域振興部会及び大学研究力強化部会
産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ
委員名簿

(敬称略、五十音順)

(委員)

大 野 英 男 国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) 理事長／東北大学 総長特別顧問／
経済産業省 特別顧問 (科学技術担当) 【主査】
久 世 和 資 旭化成株式会社 シニア・エグゼクティブ・アドバイザー
千 葉 一 裕 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 理事長

(臨時委員)

江戸川 泰 路 EDiX Professional Group 江戸川公認会計士事務所 代表パートナー
田 中 愛 治 早稲田大学 総長／一般社団法人日本私立大学連盟 常務理事
野 口 義 文 学校法人立命館 理事／立命館大学副学長 (研究担当) ／
立命館産学連携推進本部副本部長／大学院キャリアパス推進室長
波多野 睦 子 国立大学法人東京科学大学 理事・副学長

以上 7 名

産業構造審議会 イノベーション・環境分科会 イノベーション小委員会
産業競争力・研究力中核大学群に関するワーキンググループ
委員等名簿

(敬称略、五十音順)

(委員)

大 野 英 男 国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) 理事長／東北大学 総長特別顧問
経済産業省 特別顧問 (科学技術担当) 【座長】
小 川 尚 子 一般社団法人日本経済団体連合会 常務理事
折 茂 美 保 ポストン・コンサルティング・グループ合同会社 マネージング・ディレクター&パートナー
鮫 嶋 茂 稔 株式会社日立製作所 執行役常務 CTO 兼研究開発グループ長
益 一 哉 国立研究開発法人産業技術総合研究所 G-QuAT センター長

以上 5 名

(関係省庁)

上 山 隆 大 内閣府 本府参与
股 野 元 貞 外務省 経済局長
宮 園 浩 平 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員
森 真 弘 厚生労働省 医薬産業振興・医療情報審議官

以上 4 名



文部科学省



経済産業省

資料 3

産業競争力・研究力中核大学群に関するWG

(第2回) R8.7.30

前回議論の振り返りと 産業競争力・研究力中核大学群に求める要件

第2回 事務局資料

2026年7月30日

文部科学省 経済産業省

1. 前回議論の整理

- 2. 求める要件の方向性（産業競争力強化へのビジョン、経済圏への深い貢献）
- 3. ご議論いただきたい事項

第1回WGにおける主な意見 【1/6】

【本WGへの期待】

➤ 大学の研究力を産業競争力強化につなぐ制度としての産業競争力・研究力中核大学群への期待

- ・ 共同研究やスタートアップ創出、知財活用、人材育成等を通じて産業界からの投資を呼び込む役割を期待したい。
- ・ 科学技術立国の実現に向けて、大学の研究力を産業競争力の強化につなげる役割を期待したい。
- ・ 大学の研究成果や人材が産業競争力の強化に貢献できるよう、**学術界と経済界との新たな段階の連携の構築**を期待している。
- ・ **大学の知と地域の産業界・経済界との連携**を通じて、新たな産業の創出や地域経済の活性化を図り、それが我が国全体の成長につながることを期待したい。
- ・ **国際的なネットワークを有するグローバルインターフェース**として、国内外の優秀な人材の受入れ・輩出を促進する役割が求められる。
- ・ 産業・事業の革新に向けて、研究大学群が**データのハブ**として機能し、産学官の連携を加速することを期待している。

➤ 産官学連携と研究開発エコシステムの構築

- ・ 産業競争力を強化する主体を大学単独で考えるのではなく、**大学・国研・企業が一体となった研究開発エコシステム**として捉えることが必要である。
- ・ 大学のみならず、産総研、JAXA、NIMS、NICT等の**国立研究開発法人**も含めて、**経営・人材・研究戦略を一体的に検討**する視点が必要である。
- ・ **国研との人材協働や人材交流**を積極的に進めるとともに、大学教員が国研の研究活動や運営に深く参画するなど、**組織の壁を越えた実質的な深い連携**を推進することは、**高度人材**としての**博士増**にも繋がるのではないか。

➤ 国家戦略に基づく研究大学群形成の必要性

- ・ 我が国が目指すべき将来像や他国との差別化要因を明確化した上で、その実現に向けて**産業競争力・研究力中核大学群が果たすべき役割を整理**することが重要。
- ・ 産業競争力・研究力中核大学群の選定にあたっては、**その設置形態にかかわらず、高い研究力を有する大学を対象**とすることが重要である。
- ・ 個々の大学が自大学の強みのみを追求するのではなく、国家観に立って**研究大学群全体として競争力を力強く高めていく**ことが重要である。

第1回WGにおける主な意見 【2/6】

【支援】

- 大学が**経営改革を実現**するには、また、組織対組織の**包括的・大規模な産学連携**を実現するには**10年以上の支援期間**が必要ではないか。
 - 大学側の要件やコミットメントだけでなく、**政府としても**、長期的な産業政策・地域政策の中で産業競争力・研究力中核大学群をどのように位置付けるのかを明確にし、**長期的なコミットメントを示す**ことが重要である。
 - 海外含め研究に求められる資金規模が大きくなる中で、**我が国の研究力を維持・強化するためには、このタイミングで十分な研究資金を投資していくことが重要**である。
-
- 大型の産学連携実現には**段階的な発展プロセスが存在**するため、各大学が示す構想については、**実現可能性を十分に精査**する必要がある。
 - **支援規模**については、大学改革や研究基盤強化を牽引する観点から、**他の研究大学群制度も考慮**に入れた検討が必要である。
 - **支援手法**としては、**基盤的支援に加え、成果に応じて追加的な支援を行う成果連動型支援**を組み合わせることが重要である。
-
- 高い研究力と成長可能性を有する大学を幅広く対象とするとともに、**川下の産業政策の視点を踏まえながら**、大学の在り方や支援の方向性を検討することが重要である。（関係省庁意見）
 - 大学の研究力強化に向けては、文科省だけでなく**他省庁も含めて**、様々な考え方で大学を支援できる仕組みの検討も必要である。（関係省庁意見）
 - 特に、国立大学のガバナンス・経営力強化に向けては、経営資源の配分や再投資に関する戦略的な意思決定が行えるような要件を設定することが必要である。（関係省庁意見）

第1回WGにおける主な意見 【3/6】

【評価】

➤ 評価方式・体制・頻度等の設計

- 産業界が参画する独立性の高い評価委員会を設置し、定量・定性の両面から評価することが重要である。
- 意味のないKPIに縛られることがないよう、**ミッション・要件・KPIのロジックモデルの整理**が必要である。また、外部環境の変化が早い中、KPIの達成状況のみならず、**取組の見直しや改善策の提案のスピード**についても評価に織り込むことが重要ではないか。
- 制度の緊張感や信頼性を確保するため、**認定取消しを含めた仕組み**により**緊張感を維持**すべきである。ただし、**改善勧告や支援縮減等の段階的措置**を考えるべきである。
- 認定取消しだけでなく、**入替えを可能とする仕組み**が望ましいのではないか。

第1回WGにおける主な意見 【4/6】

【要件①：産業競争力強化へのビジョン】

➤ 目指すべき産業競争力・研究力中核大学群の姿

- 本施策の価値は産業政策と大学研究を結びつけることにある。
- 大学が産業界のニーズを踏まえること自体は重要だが、その時々¹の産業政策や流行テーマに右往左往するのではなく、長期的な産学官連携を構築することが必要である。

【要件②：ガバナンス・経営力】

➤ 実効性のあるガバナンス体制の構築

- まず産業競争力・研究力中核大学群の目指すべきミッションを明確化した上で、KGI・KPIを設定し、その実現に必要なガバナンスや経営体制を検討すべきである。
- プロボストやCFO等に実効的な権限が付与されているか、権限と責任が明確になっているかが重要である。
- ガバナンス体制の有無だけでなく、組織再編や資源再配分を実際に実行してきた実績も評価すべきである。
- 産業政策に適合する観点では、秘匿性の高い研究も基礎から応用まで扱うことが前提になるが、研究セキュリティや、博士学生の修了要件など、フレキシブルに対応できるガバナンスの在り方が必要となる。
- 役職を形式的に設置するのではなく、経営判断に必要な情報や指標を可視化し、実効的な経営を行える体制を整備すべきである。（関係省庁意見）

➤ 適切なリスクテイクが可能な戦略的な経営力とマネジメント機能の強化

- 産業競争力強化や価値創出を目指す上では、適切なリスクテイクを前提としたマネジメント体制が必要である。
- 理事長・学長の役割分担といった制度論にとどまらず、学長をはじめとする経営層が資源配分や投資判断を行う経営感覚を有していることが重要である。
- 独立性の高い医学部や附属病院を含め、既存組織の壁を越えて資源配分や組織改革を実行できる経営力・ガバナンスが重要である。
- 大学と産業界との人材交流に当たっては、報酬・処遇の格差が障壁となっており、その改善が重要である。

第1回WGにおける主な意見 【5/6】

【要件③：研究力・人材】

➤ 国際競争力のある研究拠点・研究コミュニティの形成

- ・ 制度設計に当たっては、全ての大学を一律に支援するのではなく、**特定分野で国内外から高く評価される強みを有する大学に重点的な支援**を行うことが重要である。
- ・ 国外から**優秀な研究者を招へい**するとともに、**日本の研究者の国際性向上**が必要である。（関係省庁意見）
- ・ 国際的な研究活動を推進する上では、**研究セキュリティ、知的財産管理、輸出管理**への適切な対応も必要である。

➤ 産業競争力強化への貢献も踏まえた評価

- ・ 委員による評価に加え、**産業界からの評価**を取り入れることが重要である。
- ・ 特に半導体、量子、AIのような分野は、**大型研究設備や先端研究施設は研究競争力の源泉**である。
- ・ 研究力評価では、論文・特許に加え、**博士人材の輩出、人材循環、研究インフラの共用化**を重視すべきである。

➤ 多様な研究人材の育成と活躍推進

- ・ 産学連携に当たっては、**学内外の多様な研究分野を横断的に結び付けるコーディネート機能の強化**が重要である。
- ・ 戦略的な知財化・標準化を担う**専門人材の育成・確保**が大学にも必要である。
- ・ **将来の担い手となる博士人材や技術人材の創出**に力点を置くことも重要である。

第1回WGにおける主な意見 【6/6】

【要件④：経済圏への深い貢献】

➤ 産業界との継続的な共創関係の構築

- ・ 企業と大学による大規模な共同研究を促進するためには、個社単位の関係のみならず、**面的なネットワーク形成**が必要である。
- ・ 企業が**初期段階から大学での研究に参画**する仕組みづくりも求められる。
- ・ 本事業を通し、**日本企業に見られる自前主義の抜本的な風土改革**も期待したい。
- ・ **産業界の参画や資金の獲得状況**についても評価の観点とすべきである。

➤ 経済圏を支える人材育成と知の循環の強化

- ・ 研究力の評価に当たっては、論文数や特許数だけでなく、**博士人材、技術人材、スタートアップ人材、将来のCTO人材**等の育成・輩出も重視すべきである。
- ・ **大学・企業間で将来ビジョンを共有し、双方のトップによるコミットメント**の下、必要な人材像を明確化した上で、人材育成を戦略的に進めることが重要である。
- ・ **契約学科**をはじめ、将来の担い手となる**博士人材や技術職員の育成に深くコミットする方式の導入義務化**なども重要である。
- ・ 専門知を非専門家に伝える「**翻訳力**」や、多様な主体と連携し研究成果を**社会実装**につなげる人材の育成が重要である。
- ・ 産学双方を理解し、連携を主導できる人材の育成に向けて、**大学と産業界が一体となった人材育成の仕組みを構築**することが重要である。
- ・ **産学連携の成果を基礎研究や博士人材育成に還元し、研究力強化につなげる好循環**を構築することが重要である。
- ・ 国外から優秀な研究者を呼び込むとともに、**大学と産業界との人材循環を促進**することが重要である。

➤ スタートアップを含む経済圏への貢献

- ・ 核融合、宇宙、量子、国産AI等の**成長分野**では、**スタートアップ等が大規模な資金調達**を行い、**研究開発の中核的な役割を担う**ようになっている。大学と企業の連携だけでなく、**大学の研究成果の実装や研究開発の担い手としてスタートアップの役割も視野に入れながら施策を進める**べきである。
- ・ スタートアップとの共同研究やデュアルユースを含め、**大学・企業・スタートアップがそれぞれの強みを生かしたエコシステムをつくる**ことが重要である。

1. 前回議論の整理
2. **求める要件の方向性（産業競争力強化へのビジョン、経済圏への深い貢献）**
3. ご議論いただきたい事項

政府の産業政策のビジョンに沿っていることを前提とし、世界で競い成長するためのガバナンスと高度な経営力を求めた上で、**特定分野での世界トップレベルの研究力と、経済圏への深い貢献を求め、各大学は戦略を策定・実行。**

1

産業競争力 強化への ビジョン

・産業分野の中核として、産業政策と適合した、国際的な産業競争力強化へ貢献するビジョン

要件例

- ✓ 産業界の現状を踏まえた実効性ある産業競争力強化へのビジョンと戦略の策定、それらに基づく具体的な施策とコミットメント
- ✓ 産業政策との適合性（政策上の重点分野と大学の強みの適合、産業集積地域等との地理的近接性、等）

2

ガバナンス・ 経営力

・産業界をはじめ国内外の多様な視点を取り入れ、世界で競い成長するための迅速かつ柔軟な意思決定ができる自律と責任のあるガバナンス体制

要件例

- ✓ 法人の長へのガバナンス、権限と責任の分担が明確な業務執行体制
- ✓ 財源の多様性の確保
- ✓ 経営戦略と研究開発戦略の統合
- ✓ 各部局との調整に基づく実効性のある全学的改革

**今回の主な
議論対象**

3

研究力 ・人材

・特定分野において、世界トップレベルの研究大学に伍する国際的な研究力と人材育成

要件例

- ✓ 強み分野の特定・明確化
- ✓ 特定分野における世界トップレベルの研究力
- ✓ 部局横断でのミッション型研究チームの構築

4

経済圏への 深い貢献

・経済圏における特定産業とのサプライチェーン横断での深い関係性、産業界からの高い評価とコミット

要件例

- ✓ 企業との提携・共同研究・共同講座・契約学科等の実績
- ✓ 特定産業におけるコンソーシアム・国プロ等での主導的役割

政府の産業政策と適合したビジョン及び戦略に加え、産業界をはじめ国内外の多様な視点を 取り入れ、迅速かつ柔軟な意思決定を可能とする自律と責任のあるガバナンス体制を求める。

1

産業競争力 強化への ビジョン

- ・ 産業分野の中核として、産業政策と適合した、国際的な産業競争力強化へ貢献するビジョン

(求められる取組例)

- ✓ 産業政策と適合した実効性ある戦略の策定
 - 産業政策と適合した経営戦略・研究開発戦略の策定と資源配分
 - 産業集積地域や重点投資地域への研究・教育・産学連携拠点の整備
 - 強み分野における企業との組織対組織の連携に基づく社会実装戦略の策定
- ✓ 産業界や産業政策の状況を取り込み働きかけるためのIR・シンクタンク等の機能整備
- ✓ 大規模経済圏への波及効果、更に他の大規模経済圏や分野を横断した連携の可能性
- ✓ 上記等の取組における大学経営陣のコミット

評価の観点（例）

- ・ 政府の産業政策との親和性
- ・ 産業集積地域や重点投資地域との地理的近接性
- ・ 政府の規制・標準化政策との適合の有無
- ・ 政府・地方自治体等の産業政策策定への貢献状況（参画数・関与数等）

2

ガバナンス・ 経営力

- ・ 産業界をはじめ国内外の多様な視点を取り入れ、世界で競い成長するための迅速かつ柔軟な意思決定ができる自律と責任のあるガバナンス体制

(求められる取組例)

- ✓ 教学担当役員（プロボスト）・事業財務担当役員（CFO）の配置、権限を有する合議制の機関の設置
- ✓ 財源の多様性の確保（一定以上の外部資金割合の担保や資産運用）、産業競争力強化及び研究力向上の両者に資する多様かつ戦略的な資源配分、外部資金依存リスクの管理等
- ✓ 特定産業の企業経営者や専門人材の経営陣への登用等
- ✓ 経営戦略と研究開発戦略の統合（資金・人材・施設及び設備等）
- ✓ 各部局との調整に基づく実効性のある全学的改革
- ✓ ストックオプション・株式等の取得・取扱機能の導入・強化、知財のライセンス・移転による収益最適化

評価の観点（例）

- ・ 経営体制の整備状況（CFO等）、権限と責任の明確さ、実効性
- ・ 外部資金獲得額、外部資金比率
- ・ 外部人材登用数・登用率
- ・ 教育・研究・産学連携・国際化の統合的KPI設定
- ・ 学内資源再配分割合、重点分野への投資集中度
- ・ 企業ニーズ反映プロセス
- ・ 学内での経営判断に資する研究・財務・人事データ等の整備・連携状況
- ・ 効果的な組織再編の実績

特定分野の国際的な研究力の強化、部局横断でのミッション型研究チームの構築、特定産業とのサプライチェーン横断での深い関係、産業界からの高い評価とコミットが求められる。

3

研究力・人材

・ 特定分野において、世界トップレベルの研究大学に伍する国際的な研究力と人材育成

(求められる取組例)

- ✓ 強み分野の特定及び、当該分野の国際的な研究力の強化（論文以外の指標も考慮）
- ✓ 国外を含む優秀な研究者の招へい、グローバルインターフェースとしての機能の強化
- ✓ 部局横断でのミッション型研究チームの構築による、研究力の強化と産業界への貢献
- ✓ 学際性・融合性、研究IR機能の強化
- ✓ 研究による知の価値化の実践・交渉（産業界からのニーズに対応する高い研究力、大型外部資金獲得、成果展開・社会実装）
- ✓ 戦略的な知財化・標準化を担う専門人材の確保・育成
- ✓ 研究インフラの共用、AI・データ基盤整備、ソフトウェア・データ公開等オープンサイエンスへの取組
- ✓ 研究セキュリティや輸出管理、インテグリティに案件ごとに対応する機能の整備
- ✓ 社会実装時における倫理的影響や法的・社会的リスクの評価
- ✓ 強み分野の拠点形成（WPI・COI-NEXT等）による国際的な研究力強化や研究基盤の構築

評価の観点（例）

- ・ 世界トップレベル研究分野数
- ・ Top10%論文割合、国際共著率
- ・ 特許件数、ライセンス件数・額
- ・ PoC件数
- ・ 産業界認知度（個別政策部局のコミットメント）
- ・ 研究データ基盤整備率

4

経済圏への深い貢献

・ 経済圏における特定産業とのサプライチェーン横断での深い関係性、産業界からの高い評価とコミット

(求められる取組例)

- ✓ 初期段階からの企業との提携、共同研究（フィージビリティスタディ含め）、共同講座等
- ✓ 特定分野で産業界においても即戦力となる人材の育成・輩出（契約学科、博士人材、研究開発マネジメント人材、スタートアップ人材、将来のCTO人材等）
- ✓ クロスアポイントメントや出向等の人材交流等
- ✓ 特定産業におけるコンソーシアムや国プロの企画及び組成、中核的役割の実践等
- ✓ スタートアップの創出・育成、共同研究・知財活用を含めた、様々な用途での研究成果の社会実装戦略の策定と取組
- ✓ 経済圏における他大学・研究機関との連携・共創
- ✓ 国研を含めた産官学連携と研究開発エコシステムの構築（共同研究や人材交流等）
- ✓ 上記等の取組における産業界や経済圏等からのコミットの獲得

評価の観点（例）

- ・ 共同研究等件数・金額
- ・ 人材育成実績（契約学科等）
- ・ 人材交流実績
- ・ コンソ・国プロ等代表機関数
- ・ 企業経営層のコミットメント
- ・ 地域雇用創出効果
- ・ スタートアップ創出数
- ・ インキュベーション施設の有無

(参考) 産業政策にも適合した戦略策定及び経営資源配分を行い、産業界や国研との
広く深い連携を通じて、産業競争力及び研究力の強化に貢献。

図はイメージ
(量子分野の例)

産業政策
(日本成長戦略会議：量子分野)

主要な製品技術

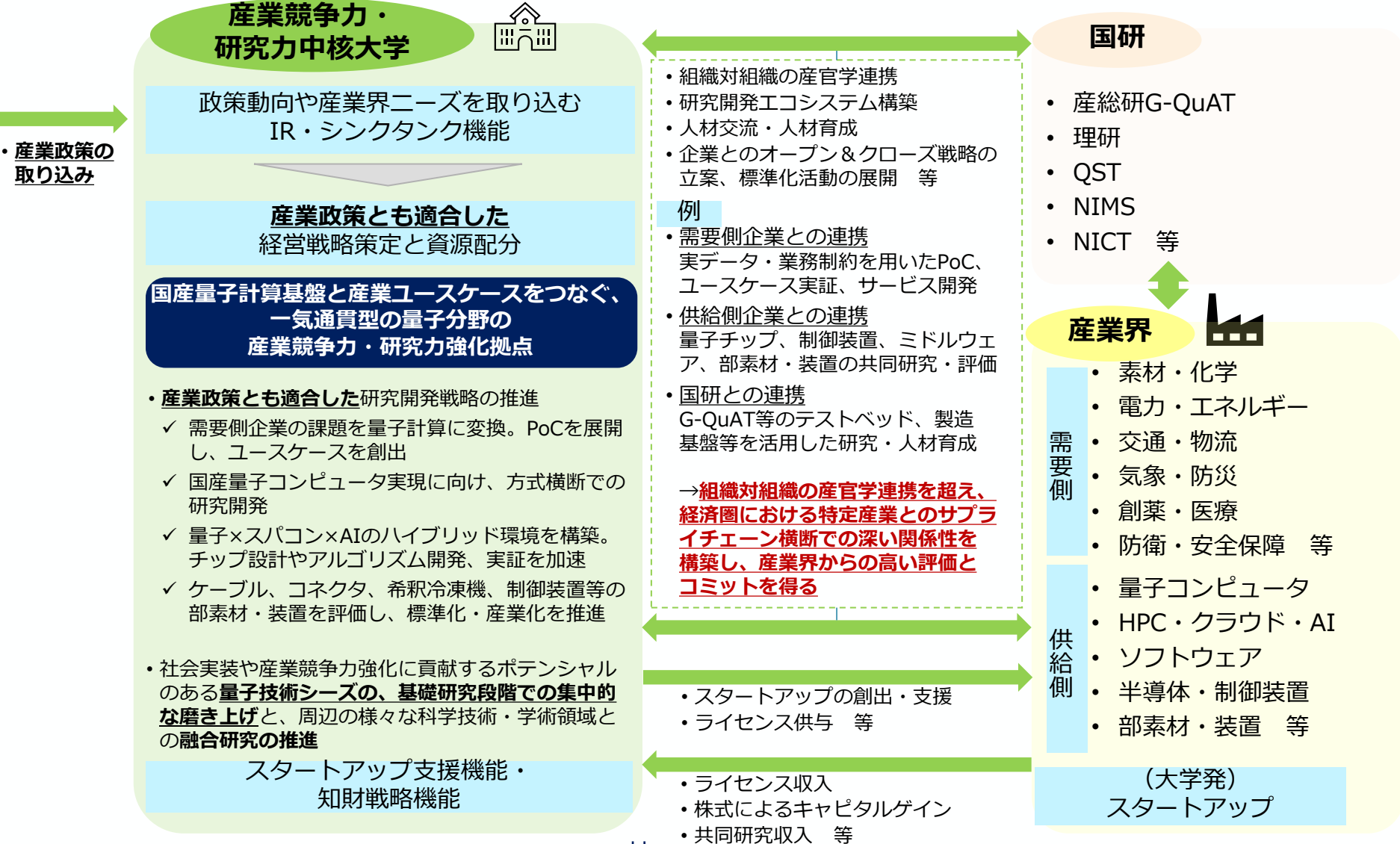
- 量子コンピューティング
- 量子通信・ネットワーク
- 量子センシング

量子コンピューティング

- 需要面では、素材、電力、交通・物流、気象・創薬、防衛等の各分野のユースケースを創出
- 供給面では、他国に過度に依存しない自律的に発展可能な量子計算基盤を確立(国産量子コンピュータ等)
- 量子と高性能計算基盤とAIを組み合わせたハイブリッド型での開発・実証環境を整備
- 量子コンピュータに不可欠なケーブル、コネクタ、希釈冷凍機等の部素材・装置の開発を加速。サプライチェーンの中で不可欠性を構築。

量子通信・ネットワーク

...



1. 前回議論の整理
2. 求める要件の方向性（産業競争力強化へのビジョン、経済圏への深い貢献）
3. **ご議論いただきたい事項**

ご議論いただきたい事項

(有識者からのプレゼンも踏まえ) 主に以下の観点からご議論いただきたい

- 産業競争力・研究力中核大学群に求める要件のうち、特に①産業競争力強化へのビジョン、④経済圏への深い貢献について、あるべき評価指標や求められる取組はどのようなものか。
- 自らの研究力をさらに強化しつつ、産業競争力強化に貢献する研究大学は多様な在り方が考えられるところ、我が国においては具体的にどのような姿が想定されるか。
- 我が国において、研究大学が、自らの研究力をさらに強化しつつ、経済圏の産業転換や産業競争力強化に貢献するために、産業界に求められることは何か。政府としてどのような後押しが求められるか。

参考

（参考）骨太の方針・日本成長戦略での産業競争力・研究力中核大学群の位置づけ

第4回日本成長戦略会議 総理発言（抄） 令和8年4月22日

松本文科大臣と赤澤大臣は、産業競争力強化に貢献する新たな大学群の形成に向けて、17の戦略分野を中心に、特定分野において特に高い研究力を有する大学を中長期的に支援する制度の創設を検討してください。



経済財政運営と改革の基本方針2026（骨太の方針）（抄） 令和8年7月21日閣議決定

（「技術で勝ってビジネスでも勝つ」新技術立国）

17の戦略分野での研究開発・社会実装を中心に、世界の学術フロンティアを先導する取組などを推進し、日本に強みのある技術や人材育成の継続的な支援を行う。基礎研究や若手研究者の挑戦的研究の支援、日本人研究者の海外派遣や国際共同研究を通じた先端研究の推進、高度専門人材等の科学技術人材の育成を進めるとともに、産学共創の拠点の形成など、それらを支える研究インフラ構築を行う。**新たな研究大学群に係る制度新設**や産学連携した学位プログラムの支援、国立研究開発法人の機能強化によって、**先端科学環境と産業競争力強化を実現する。**

日本成長戦略（抄） 令和8年7月21日閣議決定

「技術で勝ってビジネスでも勝つ」新技術立国の実現

17の戦略分野を中心とする産業競争力強化に貢献する、新技術立国の核となる新たな大学群の形成に向け、特定分野において特に高い研究力を有し高度な経営を行う大学を認定し、当該分野での研究開発及び社会実装（研究環境の整備を含む。）を中長期的に支援する新たな制度の創設について検討し、2026年度中を目途に結論を得る。

第2回 産業競争力・研究力中核大学群に関するWG

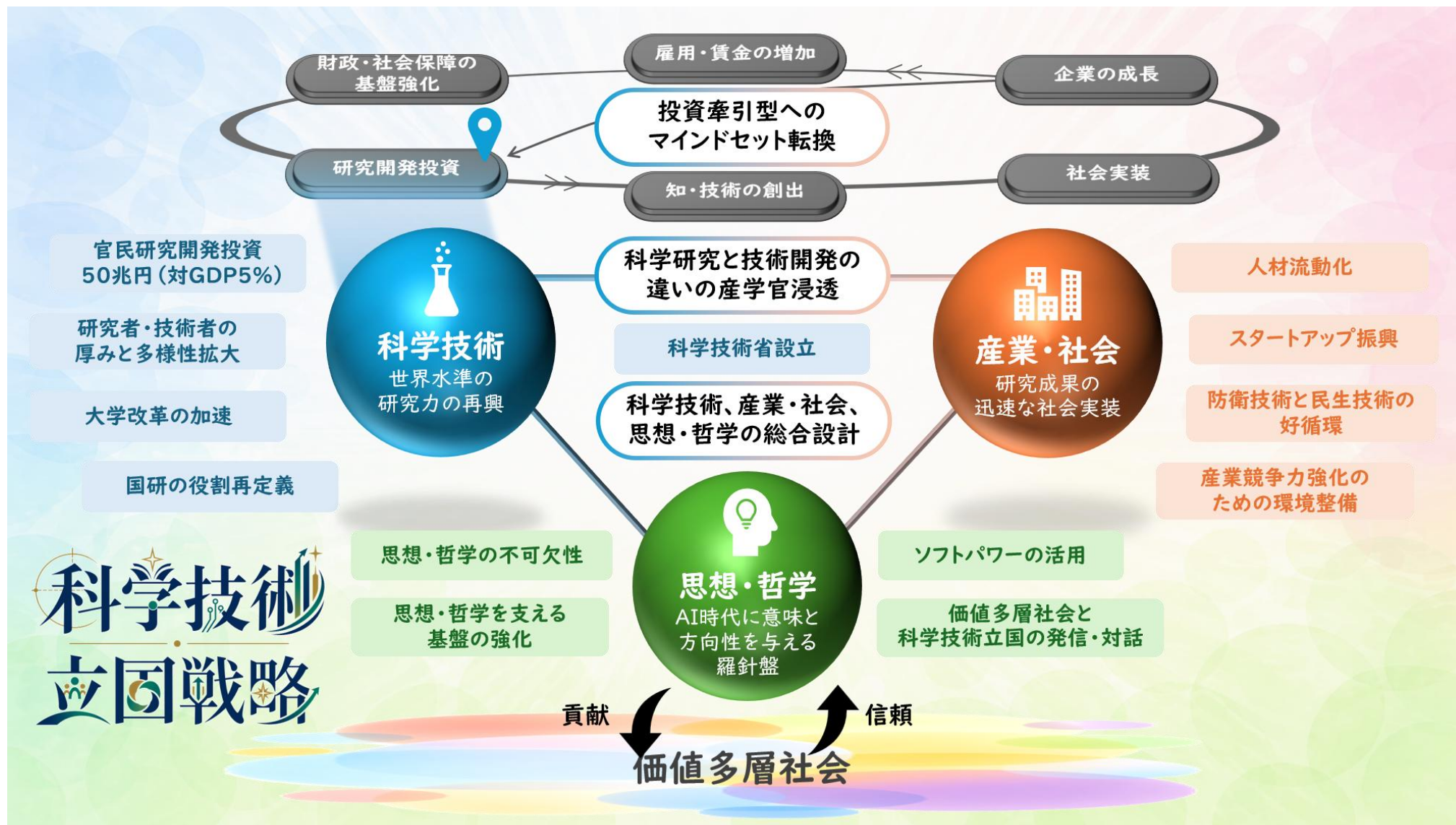
産業競争力・研究力中核大学群への期待

2026年7月30日

一般社団法人 日本経済団体連合会
常務理事 小川 尚子

はじめに：経団連「科学技術立国戦略」（2026年5月公表）

経団連では、研究開発投資を起点とした「科学技術立国」の実現に向けた考え方と必要な改革を提言。



はじめに：経団連「科学技術立国戦略」（2026年5月公表）

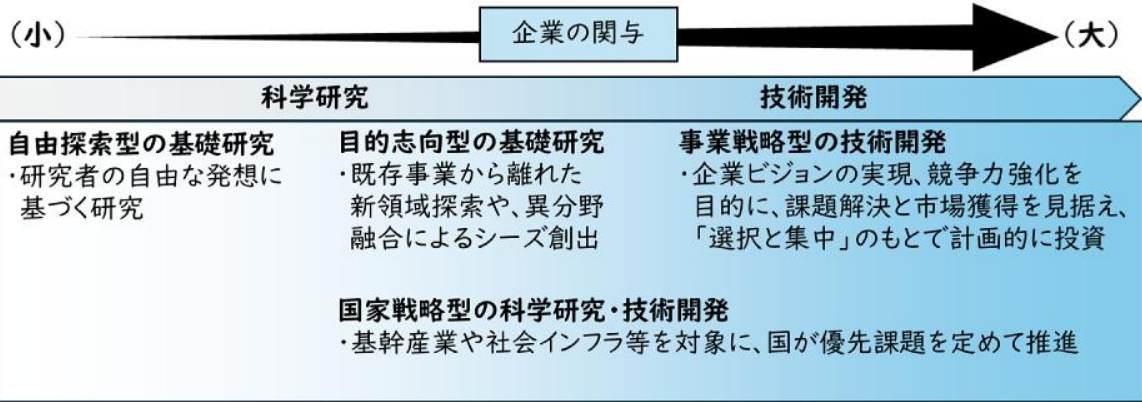
科学技術立国の実現に向けて、企業としても長期的な価値創造に資する投資を一層積極的に進めていく決意。
大学にも一層の役割を期待。持続的に研究開発成果を創出する基盤の強化に向けて、大学改革の加速を提言。財源多様化等の環境整備も必要。



企業

◆ 企業による積極投資

- ・経済界は、長らく続いたデフレ経済下での「コストカット型」経営から「投資牽引型」経営へ転換し、持続的な成長に向けて、研究開発投資をはじめ、中長期的な価値創造に資する投資を一層積極的に進めていく決意。
- ・その一環として、産学連携や、いわゆる中央研究所の再興などを通じ、基礎研究にも果敢に投資していく。



大学改革の加速

◆ 再編・統廃合の加速

- ・人口動態、医療等インフラを支える観点からの再編・統廃合を進めるべき。
- ・特定の大学を「研究大学」として指定する制度を整備する際、「研究大学」には、わが国の成長のエンジンとして、世界的に秀でた研究力を有し、イノベーションの中核として産業競争力強化に貢献することが求められる。
- ・地方においては、地域産業と結びつき、産業クラスターの形成を通じて、地方経済の強靱化に資することが期待。
- ・「研究大学」の指定に当たっては、「ある特定の分野・領域を学ぶ・研究するならこの大学」と世界に認知されるような、いわば「ビジブル」な得意領域を有することが不可欠。

◆ OIST成功モデルの横展開

- ・OISTの国内他大学との制度設計の違い（グローバル基準の人事・採用制度、研究者や研究テーマの多様性、研究の自由と責任を明確にするPI制度、研究者が研究に専念できる支援体制など）を成功要因として抽出し、国内の研究大学へと横展開することが重要。

大学(産業競争力・研究力中核大学群)に期待する役割

大学には、研究力・成果はもとより、人材育成・輩出、産業界との連携、スタートアップ創出までを含めた多様な役割を期待。大学群の評価軸については、多様な視点を取り入れて制度設計すべき。

01 価値創造人材の育成・輩出

- 分野横断による「探究力・創造性」の涵養
- 研究者・技術者など価値創造人材の厚みと多様性の拡大
- 産業基盤や医療等のインフラを支える人材の育成
- 社会人を対象としたリカレント教育の提供
- 海外留学・派遣等を通じたグローバル人材の育成
- 世界トップレベルの研究人材の招へい・定着

02 世界に冠たる研究力の確立

- 新たな知・研究開発成果の持続的な創出
- 世界的に秀でた研究力の獲得
- 「この分野ならこの大学」と世界に認知されるビジブルな得意領域の確立
- 世界トップレベルの研究拠点の形成

03 研究成果の社会実装・産業競争力強化

- 研究成果を経済的・社会的価値へ転換
- イノベーションの中核として産業競争力強化に貢献
- 企業との共同研究、産学間の人材流動の促進
- 事業戦略・知財戦略・経営人材を含む「産学融合」
- スタートアップ創出や社会実装までの一貫通貫の推進

▶ 地域産業・社会を支える中核拠点として地方経済の強靱化への貢献も期待

要件① 産業競争力強化へのビジョン について

「日本成長戦略」や「地域未来戦略」など政府の長期的な産業政策・地域政策の中で本大学群を位置づけ、政府としても長期のコミットメントを示すことが必要。

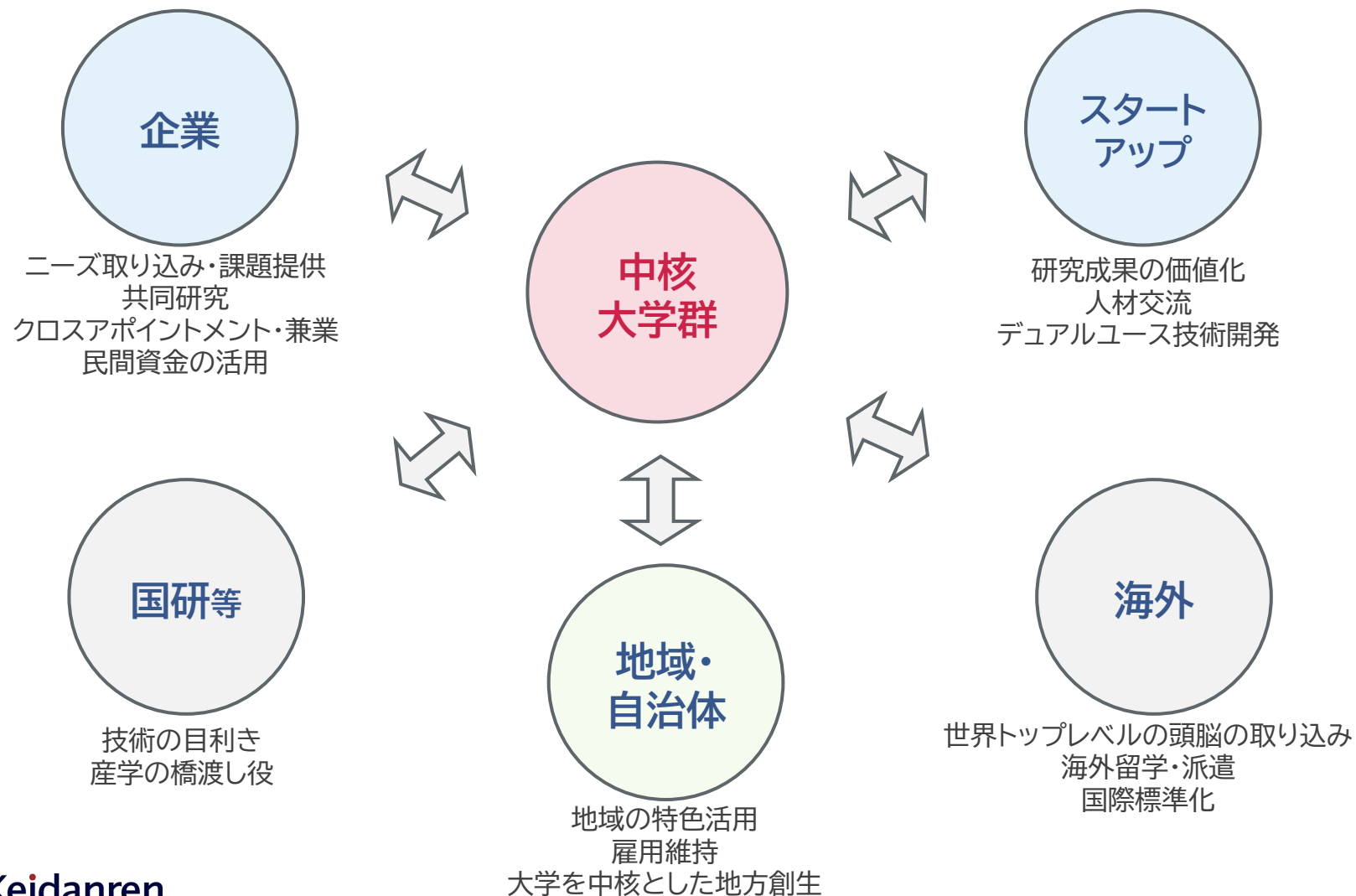


中核
大学群

政府の産業政策と連動しつつ
「ある特定の分野・領域を学ぶ・研究するならこの大学」
と世界に認知される「ビジブル」な得意領域
を有する大学群に重点的に支援

要件④ 経済圏への深い貢献 について

本大学群には、個々の企業・主体との連携にとどまらず、サプライチェーンや地域の経済圏の中でまさに中核となり、人や技術をつなぎ、産業競争力強化に貢献することを期待。



産業・社会への実装に向けて 「死の谷」を超える鍵は 人材流動化

- クロスアポイントメントにおいては、雇用契約の煩雑さ、機密保持や知財管理等が課題
- 大学や国研は、経済界から研究者や事業戦略・知財戦略人材、経営人材を呼び込むべく、報酬・処遇を経済界水準に引き上げるべき
- 経済界も、自らの人材の多様性を高めイノベーション力強化につなげるべく、積極的に大学や国研、さらにスタートアップの人材を受け入れることが重要

都市の産学連携エコシステム

2026年7月30日

三井不動産株式会社
イノベーション推進本部 産学連携推進部長
湯川俊一

三井不動産グループは、時代や国の要請にチャレンジする形で成長

事業の方向性	1941(設立)～ 高度経済成長下で事業基盤を確立	1970～ 安定成長に向けた多角化経営へ	1980～ グループ総合力を活かし 「豊かな暮らし」の実現へ	1990～ バブル崩壊後のデフレ下で事業を再構築	2000～ 資産デフレが収束し、街づくりの推進へ	2010～ 市場が成熟するなかで、 ミクストユースの街づくりを推進
新たな価値の創造	1950年代後半～ 首都圏のインフラ整備に貢献 「海を大地に変える」 京葉臨海地区の埋立事業 	1968年 日本初の超高層ビル 「日本の超高層時代を切り拓く」 霞が関ビルディング 	1981年 ショッピングセンターの先駆け 「新しいライフスタイルの創造へ」 ららぽーとTOKYO-BAY 	1993年 東京湾岸タワーマンションの先駆け 「都心の住宅課題の解決へ」 大川端リバーシティ21 西ブロック 	1995年 日本初の本格的アウトレットモール 「新しい消費スタイルの創造へ」 三井アウトレットパーク大阪鶴見 	2001年 国内初のリット上場 「不動産業界に新たなビジネスを」 日本ビルファンド投資法人 

昨今は、国や産業界の要請を受け、ライフサイエンス・宇宙・半導体産業における
「コミュニティ」の形成と「場」の整備を通じて新産業創造に貢献

< ライフサイエンス >



< 宇宙 >



< 半導体 >



食糧？



エネルギー？



人材

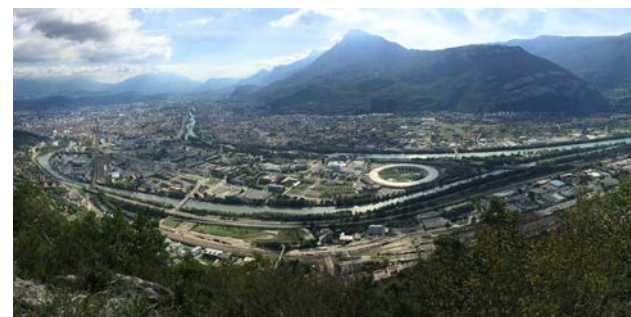


人材獲得競争が激化する中、**高度人材を輩出する大学（+国立研究所）を核とした高度産業集積の動きが、世界各国で見られている**



新竹サイエンスパーク（台湾）

- ・ 国立陽明交通大学、工業技術研究院（ITRI）
- ・ TSMC、MediaTek 等



グルノーブルGIANTキャンパス（フランス）

- ・ 原子力・代替エネルギー庁（CEA）
- グルノーブル・アルプ大学
- ・ Apple、Huawei 等

東北大学サイエンスパーク



- 2023年5月 G7科学技術大臣会議開催 (@ナノテラス)
- 2024年4月 サイエンスパーク構想発表
- 2024年12月 東北大学が国際卓越研究大学第1号に認定
- 2024年4月 ナノテラス稼働
- 産学共創施設（1棟目/2棟目）竣工
- 2025年4月 東京エレクトロン宮城 第3開発棟竣工
- 2025年 産学共創施設（3棟目）着工

G7科学技術大臣会議開催 (@ナノテラス)



東京エレクトロン宮城 第3開発棟



熊本サイエンスパーク



- 2023年3月 熊本空港 新ターミナル竣工
- 2024年12月 JASM第1工場量産開始
- 2025年3月 県がくまもとサイエンスパーク推進ビジョンを策定
- 2025年下期 ソニーセミコンダクタソリューションズ新工場竣工
- 2025年10月 JASM第2工場着工

熊本空港 新ターミナル

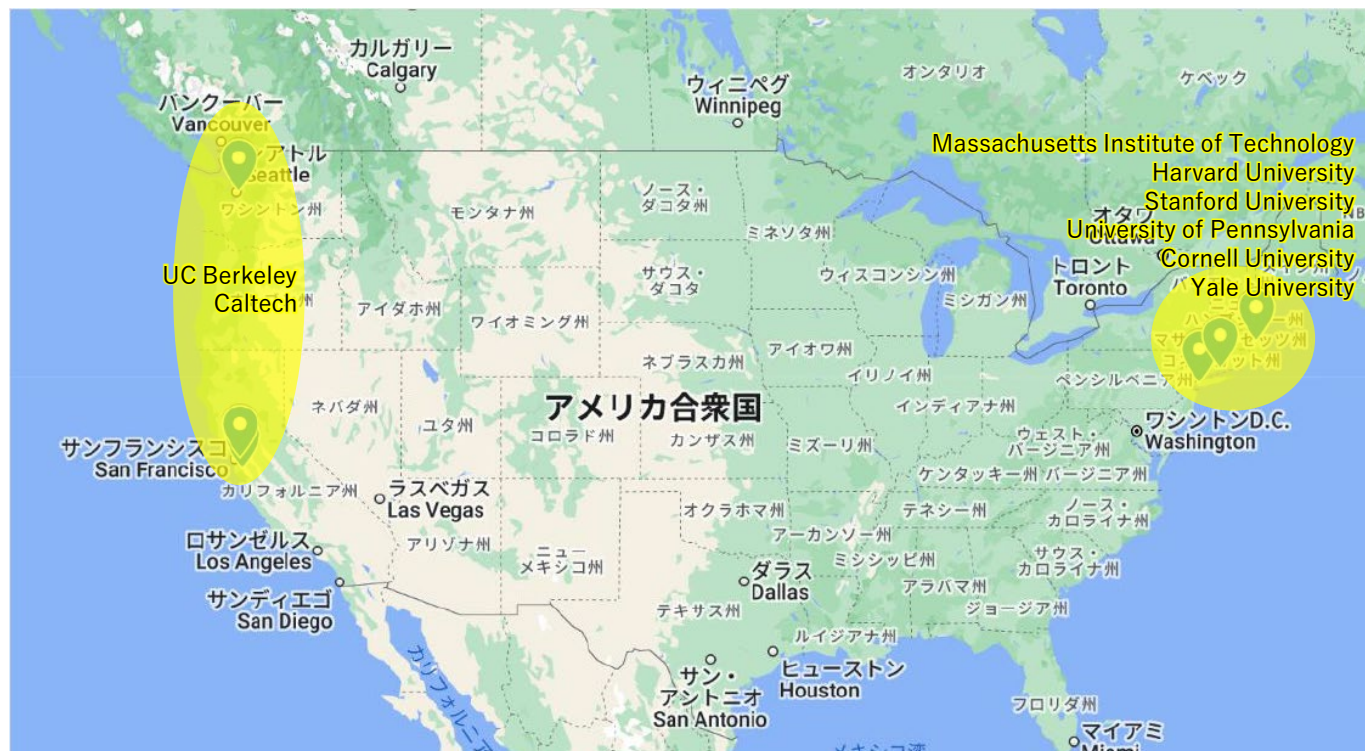


JASM 第1工場



注目すべき都市は、必ずしもシリコンバレーではない

世界のトップクラスの人材やマネーが集まることが前提となっている西海岸や東海岸の都市
= 必ずしもシリコンバレーモデルが日本の多くの都市の参考になるわけではない



Google Maps をもとに作成

QS World University Rankings 2024		
1	マサチューセッツ工科大学	アメリカ
2	ケンブリッジ大学	イギリス
3	オックスフォード大学	イギリス
4	ハーバード大学	アメリカ
5	スタンフォード大学	アメリカ
6	インペリアル・カレッジ・ロンドン	イギリス
7	スイス連邦工科大学チューリッヒ校	スイス
8	シンガポール国立大学	シンガポール
9	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	イギリス
10	カリフォルニア大学バークレー校	アメリカ
11	シカゴ大学	アメリカ
12	ペンシルベニア大学	アメリカ
13	コーネル大学	アメリカ
14	メルボルン大学	オーストラリア
15	カリフォルニア工科大学	アメリカ
16	イエール大学	アメリカ
17	清華大学	中国
18	プリンストン大学	アメリカ
19	ニューサウスウェールズ大学	オーストラリア
20	シドニー大学	オーストラリア

勢いを増すラストベルト、サンベルトの中規模都市



Google Maps をもとに作成

Sandiego



Austin



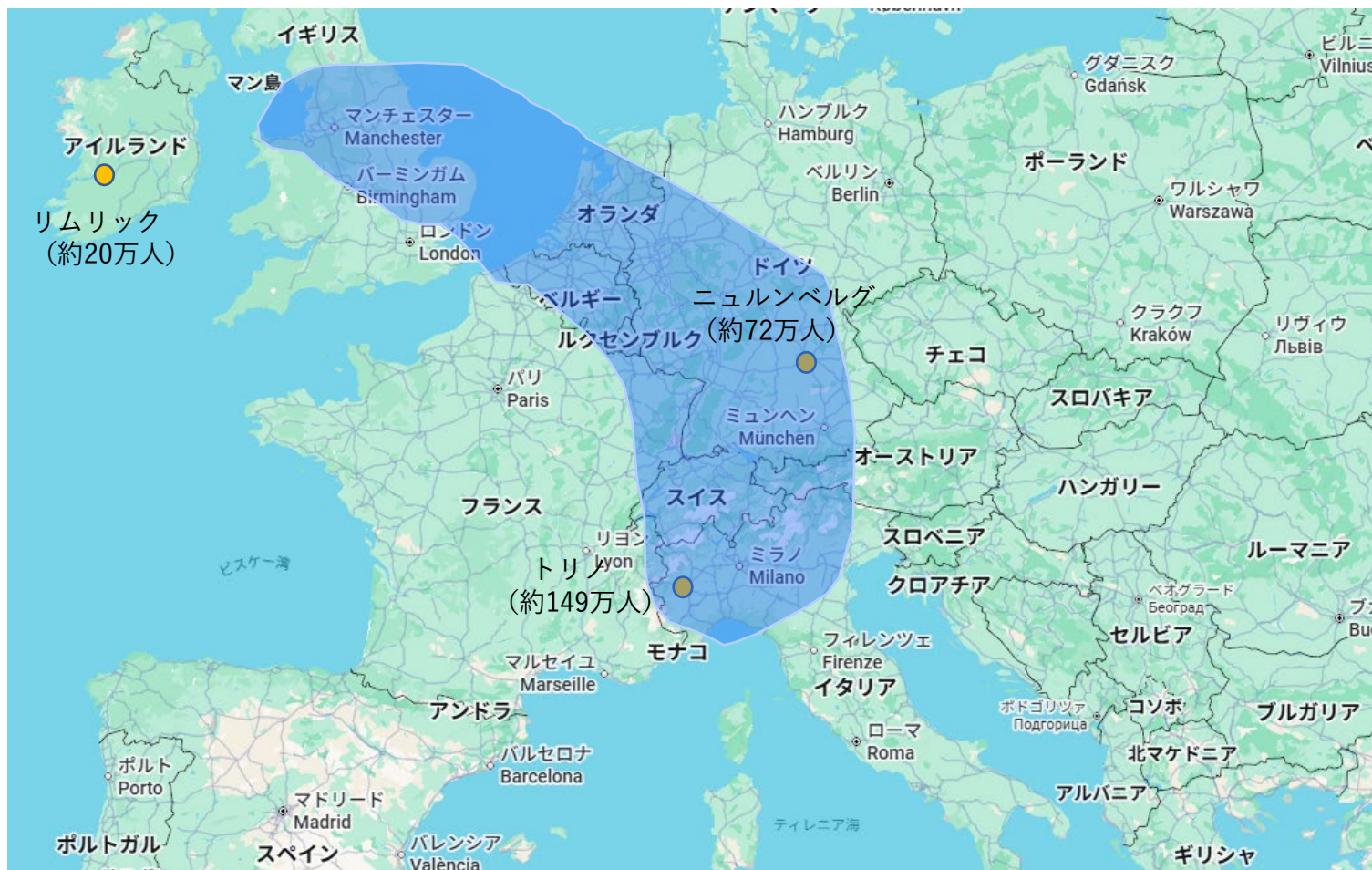
Madison



Pittsburgh



欧州「ブルーバナナ」の中規模都市



Google Maps をもとに作成

Torino



Nürnberg



Limerick



■米国サンベルト

サンディエゴ・オースティン（コンピューター→ バイオテクノロジー、半導体）

■米国ラストベルト

- ・シカゴ（IT→量子コンピューター）
- ・ピッツバーグ（鉄鋼業→ AIロボティクス・ライフサイエンス）
- ・ミネアポリス・セントポール（医療器械→メドテック）
- ・ロチェスター（病院→メディカルコンプレックス）
- ・シャンペーン・アーバナ（IT →アグリテック）
- ・ウィスコンシン・マディソン（酪農業⇒ライフサイエンス、IT）

■欧州ブルーバナナ

- ・ニュルンベルグ（医療用機器→AI、IT、メディカルエンジニアリング）
- ・トリノ（自動車産業→ 航空宇宙、eモビリティ）
- ・リムリック（航空関連→半導体、eモビリティ）

■研究目的

アカデミアを中心とした都市の産学連携エコシステムにおける
キーサクセスファクターを明らかにする

■研究対象（一例）

首都などの大都市を除外した第2・3位以下の地方都市

- ・ 米国サンベルト（サンディエゴ・オースティン）
- ・ 米国ラストベルト（シカゴ、ピッツバーグ、ミネアポリス・セントポール、ロチェスター、シャンペーン・アーバナ、マディソン）、
- ・ 欧州ブルーバナナ（ニュルンベルグ、トリノ、リムリック）

■研究期間および手法

2023年4月より文献調査および関係者インタビューを実施。
対象地をさらに拡大して研究中。

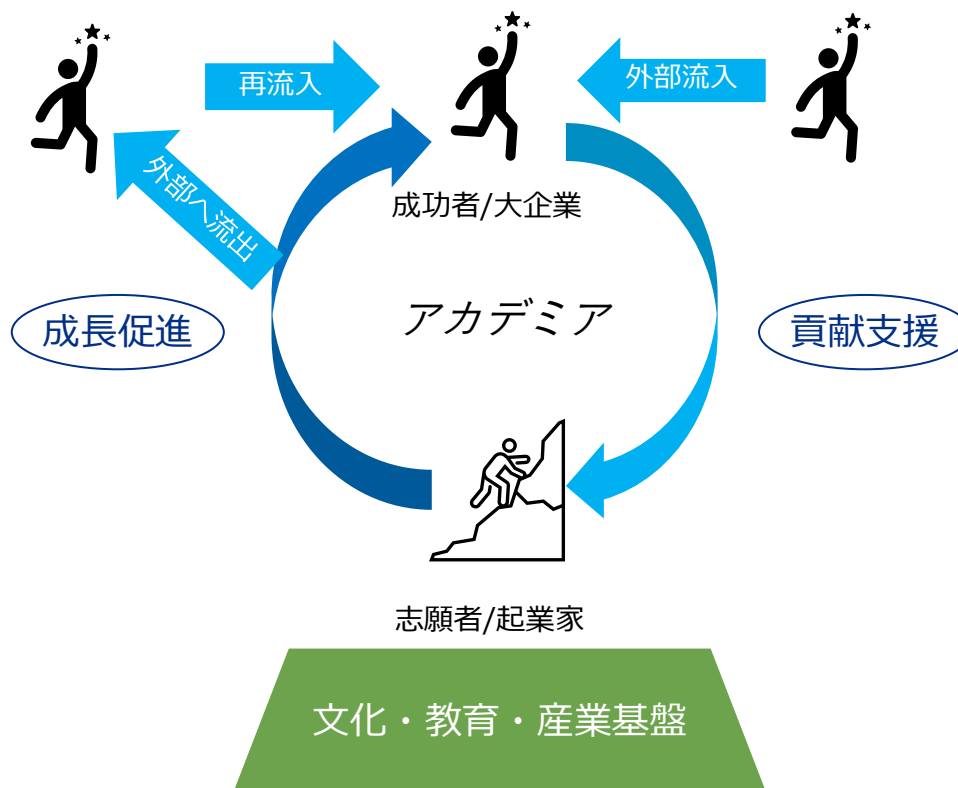
**都市の産学連携エコシステムでは
“世代を超えた”人材育成の仕組みが肝**



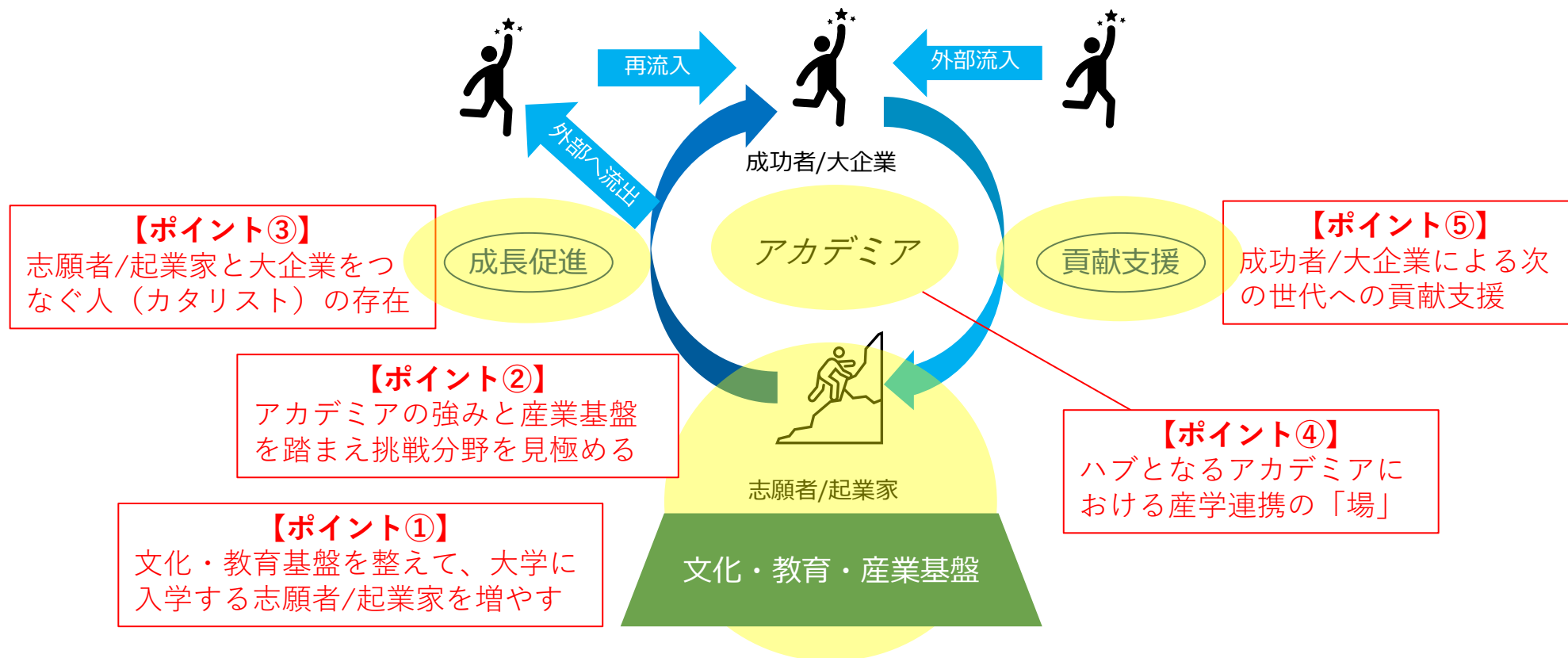
広島修道大学 太田耕史郎教授

1992年3月青山学院大学大学院経済学研究科博士後期課程満期退学。広島修道大学経済科学部専任講師，助教授などを経て2003年4月同大学教授。著書：『地域産業政策論』（2016），『ラストベルト都市の産業と産業政策—地方都市復活への教訓—』（2019），『地域振興と慈善活動—慈善・寄付は地域を呼び覚ます—』（2022），黒川和美著『官僚行動の公共選択分析』（2013），The Application of Economic Sciences to Civic Life and Local Economies（2024）など

- 地域の文化・教育基盤を整えて、大学に入学する志願者/起業家を増やし、彼らが成長して成功者となる
- 成功者が地域に還元するために次の世代への貢献支援を行うことで、世代を超えた人材育成の好循環が生まれる
- 外部流出した先で成功した後に戻ってきて支援者になるケースや、全く所縁の無いものが外部から流入して成功し、その地にとどまって還元するケースも加わり、エコシステムに厚みが増す。



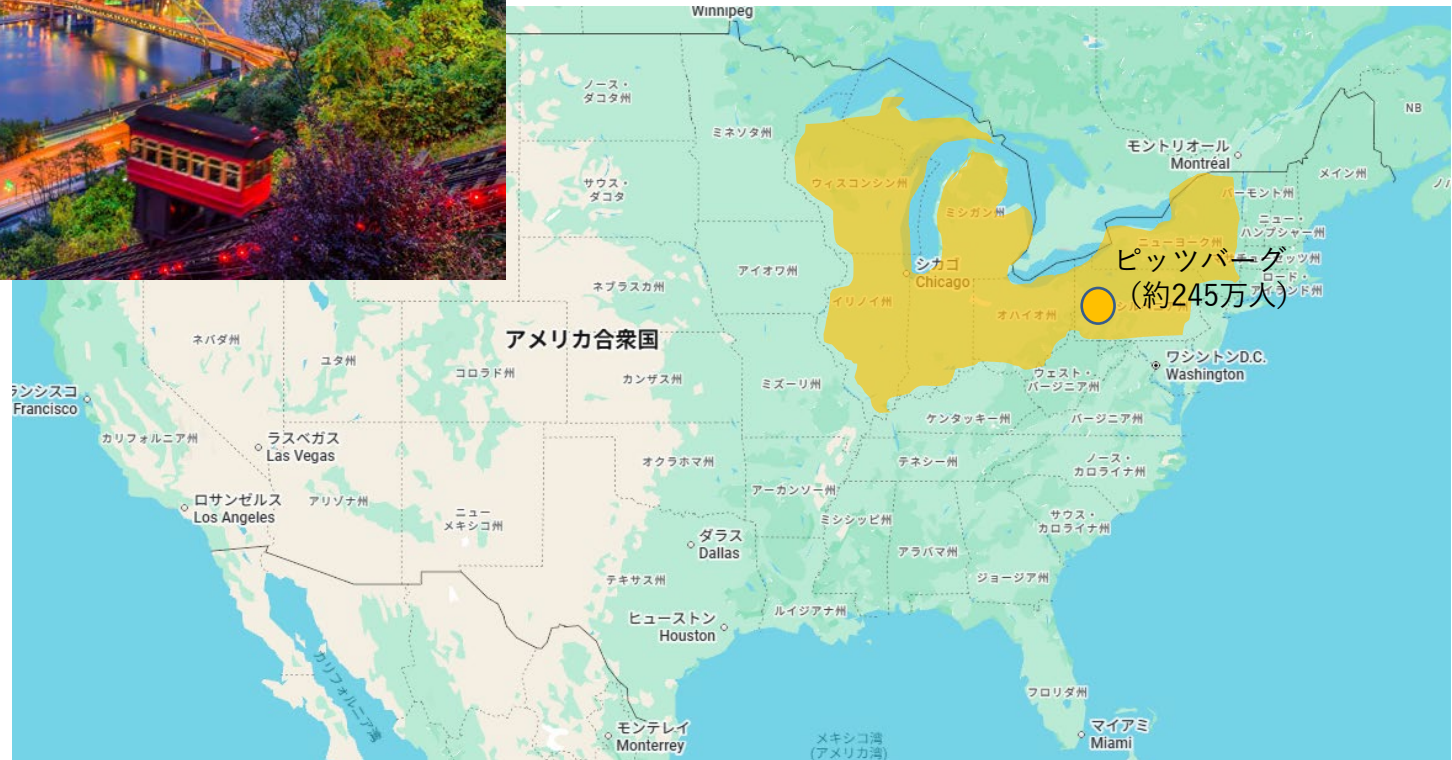
- 地域の文化・教育基盤を整えて、大学に入学する志願者/起業家を増やし、彼らが成長して成功者となる
- 成功者が地域に還元するために次の世代への貢献支援を行うことで、世代を超えた人材育成の好循環が生まれる
- 外部流出した先で成功した後に戻ってきて支援者になるケースや、全く所縁の無いものが外部から流入して成功し、その地にとどまって還元するケースも加わり、エコシステムに厚みが増す。



都市の産学連携エコシステムの海外事例

- ピッツバーグ
- トリノ
- マディソン

事例①：ピッツバーグ



Google Maps をもとに作成

事例①：ピッツバーグ

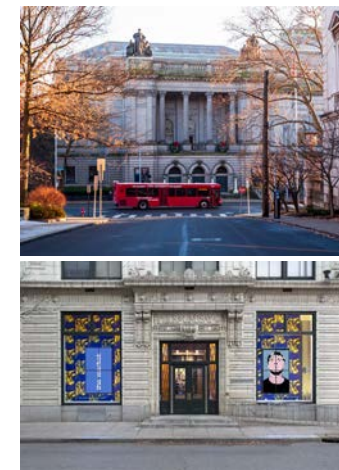
USスチール



ハイツ



カーネギー自然史博物館(上)
アンディ・ウォーホル美術館(下)



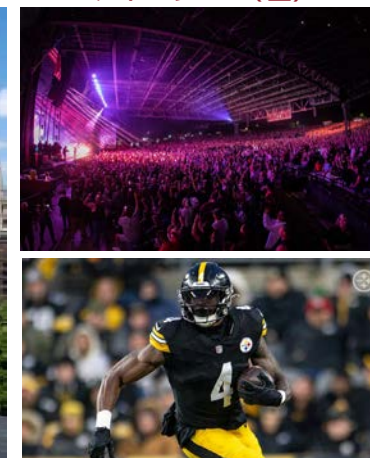
ピッツバーグ大学



カーネギーメロン大学



The Pavilion at Star Lake(上)
スティールーズ(左)



- 1900～1960年代には2つの世界大戦の需要などを受け、鉄鋼業を中心に繁栄。鉄鋼王A.カーネギーが莫大な財を成す。製鉄・食品加工業等で財をなした起業家が、**篤志家として財団を設立し、大学に教育資金を寄付**。さらに、**故郷への愛着心を育む文化・教育基盤を整備**。
- 1970～2000年頃には国際的な価格競争等の要因で鉄鋼業が衰退し、2003年に市が財政破綻
- 2000年代からはピッツバーグ大学やカーネギーメロン大学が、大学の強みを生かした研究をおこない、**AIロボティクスやライフサイエンス分野で優秀な人材を呼び寄せ、新産業が発展**。

<成長企業>

Carnegie Robotics(ロボティクス)

Predictive Oncology(AIがん治療)

Advanced Construction Robotics(ロボティクス)

Duolingo(学習)

Carnegie Robotics



Predictive Oncology

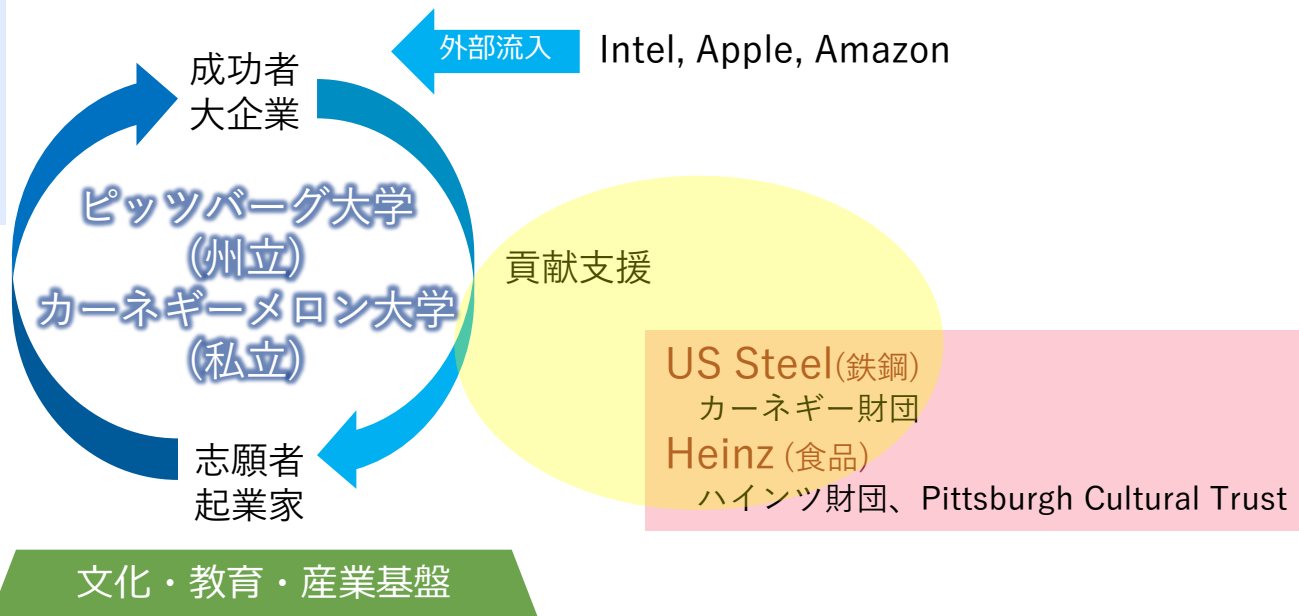


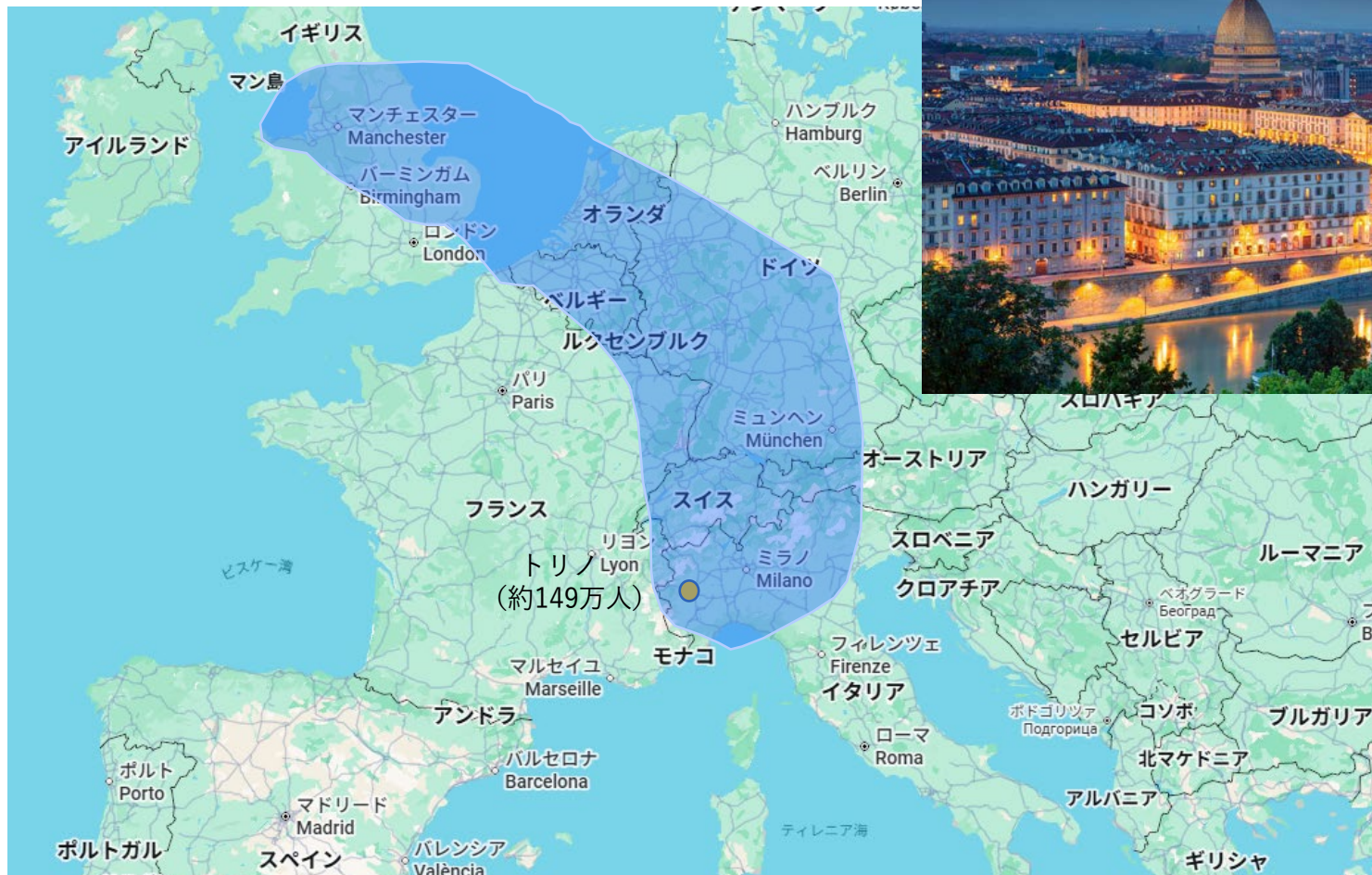
成長促進

Pittsburgh Robotics Network
(コミュニティ)

Pittsburgh Life Sciences Greenhouse
(資金提供)

ピッツバーグ大学：主な学部は医学部で世界ランキングも上位。教員の半数は医学部。
ピッツバーグ医療センター(UPMC)は大学付属病院から独立。
カーネギーメロン大学：世界ランキングでコンピュータサイエンスが9位、人工知能が29位と上位にあり、ロボット工学で成果をあげている。





Google Maps をもとに作成

FIAT



トリノ自動車博物館



トリノ2006冬季オリンピック



トリノ工科大学



サヴォイア王家の王宮群



Del Cambio(上)
EATALY(下)



ユベントス



- FIATの工場移転縮小により衰退・空洞化したが、1993年にトリノ工科大・カステラーニ教授が市長となり産学連携を推進、オリンピック誘致を契機とした再開発もあって都市再生。
- FIAT創業家のAgnelli家、欧州最大の民間慈善団体であるサンパオロ財団等による寄付により、大学の強みを活かした起業が増える
- FIATが工場跡地をトリノ工科大学に開放し、大学がインキュベーターに場を賃貸、さらにはスタートアップに人材を派遣することで、大企業からスタートアップへの出資を集める。

<成長企業>

Aerospace Logistics Technology
Engineering Company(宇宙工学、右図)
Newcleo(次世代原子力)



V. Castellani元トリノ市長
(トリノ工科大学教授)



成長促進

I3P (インキュベータ)
CITTA DI TORINO FINPIEMONTE
(金融・開発公社)

成功者
/大企業

トリノ工科大学
(国立)

志願者
/起業家

文化・教育・産業基盤

トリノ工科大学：エンジニアリングのプログラムに
定評があり就職率も高い。

貢献支援

Agnelli family
FIAT(自動車)
工場跡地を大学で活用



Fondazione Compagnia di San Paolo
(欧州最大の民間慈善団体)



Copyright © 2026 Mitsui Fudosan Co., Ltd. Confidential

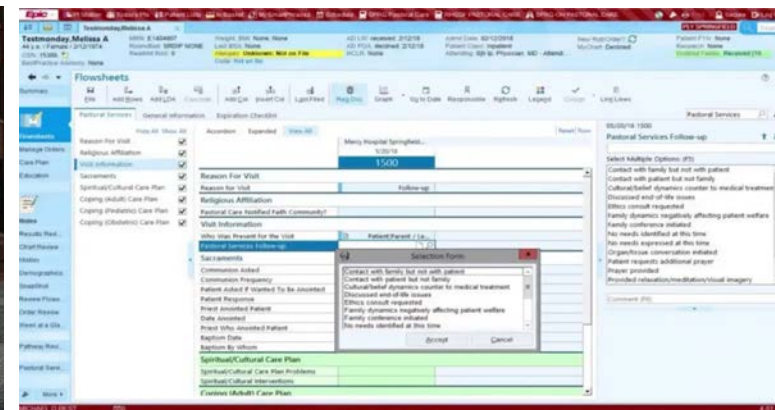
酪農



Harley Davidson



Epic Systems



ウィスコンシン大学マディソン校



ユニテリアン教会
(フランク・ロイド・ライト設計)



ファーマーズマーケット(上)
バジャーズ(下)



マディソンで見られた「産学連携エコシステム」

- 古くから酪農で知られるマディソンだが、ウィスコンシン大学マディソン校を拠点として独自のエコシステムを形成し、スタートアップだけでなく大企業も誘致。
- 1984年に、農業研究に使用しなくなった大学用地を非営利団体（University Research Park）に売却。以降、産学連携のための建物の開発とコミュニティ形成に着手。研究者と企業をつなぐ“カタリスト”が機能し、ライフサイエンスを中心とする新産業が創出。

John P. Morgridge
(元Cisco Systems会長)



Judith faulkner
(Epic systems創業者)



ウィスコンシン大学マディソン校：
世界ランキングで微生物学が27位、動植物学が29位、農業科学が34位と上位。1900年創立の全米で最も古い公立ビジネススクールの一つがあり、少人数制で実践的なカリキュラムと強力な卒業生ネットワークを誇る。

再流入

外部流入

Exact Science（がん治療）
キッコーマン、コマツ、フジ フィルム

外部へ流出

成功者
大企業

貢献支援

Judith faulkner
Roots & Wings財団
John P. Morgridge
モーグリッジ研究所

成長促進

ウィスコンシン大学
マディソン校
(州立)

志願者
起業家

外部流入

Pyran(バイオ)
Kevin Barnett



Jessica Martin Eckerly
(Forward BIOLABS創設)

Aaron Oliver
(University Research Park
managing director)

文化・教育・産業基盤

日本版 産学連携エコシステムを 5つのポイントから考える

- 文化・教育基盤
- アカデミアの強みと産業基盤
- つなぐ人（カタリスト）
- 場の整備主体
- 資金

①幼少期から科学技術に興味を持つ基盤づくり

（美術館、博物館、大学の開放、子供実験教室等）

テキサス大学オースティン校では、キャンパスを**子供に全面開放**するSTEM Girl Day at UT Austinを毎年開催。

ピッツバーグではカーネギー財団等が**自然史博物館**や**アンディ・ウォーホル美術館**を建設するなど、地域の文化教養レベルを底上げ。



②生まれ育った人が郷土愛を持つ要素（食事・スポーツ・音楽・風景等）

トリノではサヴォイア王家の王宮群を始めとした**美しい街並み**や、ワイン・白トリュフなどの**特徴的な食文化**、ユヴェントスFCとトリノFCの熱狂的な**ダービーマッチ**などが郷土愛を育む。

オースティンではバーやライブハウス、屋外イベントが交流の場をつくり上げ、「**ライブ・ミュージックの都**」と称されるほど音楽が街に根付く。



③外部から人を呼び込み、定着させる魅力

エクス・アン・プロヴァンスは核融合実験炉ITER 等で研究者に最先端の研究環境を提供することに加えて、**家族のQOL向上に資する要素も大切**にしている。例えば、日照に恵まれた南仏の気候、豊かな農地やブドウ畑に囲まれた食の環境に加えて、子女の教育のための**フランス唯一の公立インターナショナルスクール**を設立。幼稚園から高校までの一貫校で、**フランス語と各国の母国語によるバイリンガル教育**を実施。



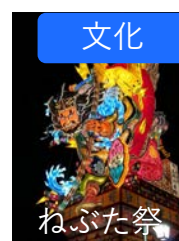
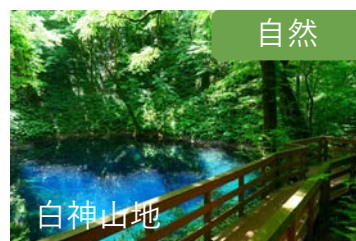
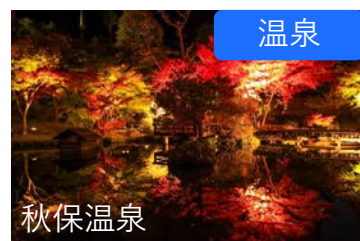
■日本の事例（沖縄）

入学者の外国人比率が8割を超える沖縄科学技術大学院大学（OIST）では、研究環境のみならず、研究者の豊かな住環境や保育・託児環境も整備。

「③外部から人を呼び込み、定着させる魅力」を向上させるために、**子供の教育環境の整備など、研究者の家族のQOLをトータルでサポート**。

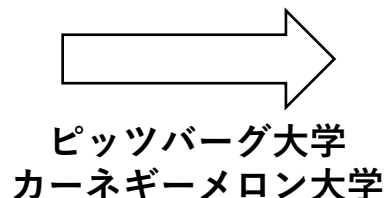


ポイント① 文化・教育基盤（東北エリアに視点を向けてみる）

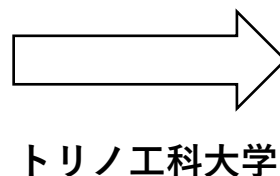


地域に根差したスポーツ・音楽・食・アート・祭り等が郷土愛を育み研究者を惹き付ける。
加えて家族のQOL向上が重要。日本の地方都市もポテンシャルが高い。

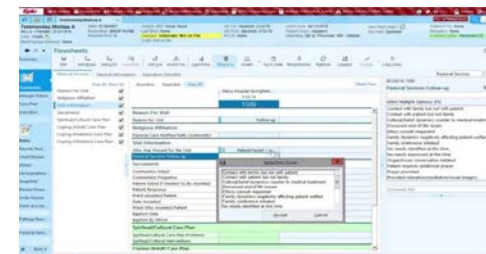
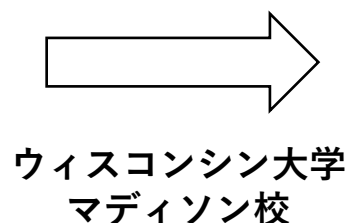
ピッツバーグ：鉄鋼業からAIロボティクス・ライフサイエンスに産業転換



トリノ：自動車産業から航空宇宙、eモビリティに産業転換



マディソン：酪農業からライフサイエンス、ITに産業転換



**アカデミアの強みと産業基盤の強みが共に進化していく分野を
見極め挑戦することが重要**

- 研究者と産業界をつなぐカタリストの存在が成長の過程で重要な役割を果たす
- ウィスコンシン大学マディソン校が好事例。Forward BIOLABSを創設したCEOのJessica Martin Eckerlyと、University Research Parkのmanaging directorであるAaron Olver氏。



Jessica Martin Eckerly
(Forward BIOLABS創設)



Aaron Olver
(University Research Parkの
managing director)

- 十分な年収を得られていることに加えて、**優良スタートアップに対してエクイティ出資も可能であるなど、個人としてのインセンティブ**も用意された設計がされている。
- 日本にもリサーチ・アドミニストレーター（URA）をはじめとした研究開発マネジメント人材の仕組みがあるものの、多くの大学で専門知識や経験を持つ人材の登用・配置が未だ不十分であり、URAの活動や成果を大学経営や人事制度に反映する仕組みがない場合が多く、組織内で十分な評価がなされていない。今後は、業績評価に基づく昇給・昇格、給与へのインセンティブ付与、表彰制度などを整備することが望まれる。
- 三井不動産は今後有望と考える分野（ライフサイエンス・宇宙・半導体）において、「コミュニティ」の形成と「場」の整備を通じて新産業創造に貢献しており、大学内のリソースに限らず民間企業を活用することも考えられる。

**大学だけに依存することなく、民間企業の
ノウハウ・人的リソースを活用することも重要**

「場の整備」においては、大学を中心に、行政・民間企業（デベロッパーだけでなく共同研究企業も含む）の適切な役割分担に加え、篤志家の手厚い支援も重要なファクターとなっている。

大学近接型

イリノイ大学 リサーチパーク

大学キャンパス内に、大学が整備した施設、民間企業（NVIDIA等）が整備した施設、産学連携により整備した施設、篤志家の寄付による施設が混住。



アウトリーチ型

トリノ工科大学(Mirafiori)

閉鎖したFIATの工場跡地を大学キャンパスやインキュベーション施設としてリノベーション。企業や顧客市場に近接した場所に大学がアウトリーチした例



リノベーション



**場の整備主体が複数存在するうえで、大学と産業界が共に
新たな価値を創造し続ける「持続性と拡張性」が重要**

■事例に挙げた中堅大学でも **日本の主要大学を超えた収入規模**

ピッツバーグ大学：約32億ドル【約5,120億円】（2022年）

カーネギーメロン大学：約19億ドル【約3,040億円】（2022年）

ウィスコンシン大学マディソン校：約40億ドル【約6,400億円】（2022年） ※1ドル160円で換算

（参考）東京大学：2,674億円（2023年）、

慶應義塾大学：1,766億円（2023年）

東北大学：1,491億円（2023年） ※東北大学統合報告書2024から引用した事業規模

■日本では欧米のような寄付文化が根付いておらず補助金が占める割合が高い。 **企業との共同研究など資金調達手法の更なる多様化が期待される。**

■台湾や韓国を参考に、新たに **契約学科の仕組みが整えられ始めており、資金調達方法の1つとして、かつ人材獲得の手法としても期待される**

■ **新しい産業の創出にあたっては期間の長い投資が必要**とされ、この観点において国からの更なる支援が期待される。あわせてスピード感と金額の規模感も重要。

**大学側の資金調達手法に関して更なる多様化が期待されることに加えて、
新産業創出のために期間の長い投資を行う国の役割も重要である**

文化・ 教育基盤

1. 人材を惹き付ける基盤づくりとは？

- ・ 「幼少期から科学技術に興味を持つ基盤づくり（美術館、博物館、大学の開放、子供実験教室等）」 「生まれ育った人が郷土愛を持つ要素」 「外部から人を呼び込み、定着させる魅力」 が重要
- ・ 地域に根差したスポーツ・音楽・食・アート・祭り等が郷土愛を育み研究者を惹き付ける。加えて家族のQOL向上が重要。日本の地方都市もポテンシャルが高い。

アカデミアの強 みと産業基盤

2. どの分野に強みがあるのか？

- ・ アカデミアの強みと産業基盤の強みが共に進化していく分野を、挑戦分野として見極めることが重要

つなぐ人 (カタリスト)

3. カタリストは誰が？

- ・ 日本の大学にも期待される人材はいるものの、十分機能しているとはいいがたい。
- ・ 大学だけに依存することなく、民間企業のノウハウ・人的リソースを活用することも重要

場

4. 産学連携の場はどこにあるべきか？

- ・ 考えるべき「場」は2種類。
 - ① 大学に近接し、産官学の様々なプレイヤーが整備した施設が混住するコンプレックス
 - ② 顧客（産業）に近接し、大学がキャンパスの外へアウトリーチするための場
- ・ 場の整備主体が複数存在するうえで、大学と産業界が共に新たな価値を創造し続ける「持続性と拡張性」が重要

資金

5. 資金の出し手は？

- ・ 大学側の資金調達手法に関して更なる多様化が期待されることに加えて、新産業創出のために期間の長い投資を行う国の役割も重要

<p3>新竹サイエンスパーク（台湾）は新竹サイエンスパーク公式サイト。

<p4>東北大学サイエンスパークは東北大学公式サイト、G7科学技術大臣会議開催（@ナノテラス）は内閣府公式サイト、東京エレクトロン宮城 第3開発棟は東京エレクトロン株式会社公式サイト、熊本サイエンスパークは三井不動産株式会社公式サイト、熊本空港新ターミナルは熊本空港株式会社の公式サイト、JASM 第1工場はJapan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社公式サイト。

<p14>USスチールはU.S. Steel公式サイト、ハインツはHeinz History Center公式サイト、アンディ ウォーホル美術館はThe Andy Warhol Museum公式サイト、ピッツバーグ大学はUniversity of Pittsburgh公式サイト、カーネギーメロン大学はCarnegie Mellon University公式サイト、The Pavilion at Star LakeはThe Pavilion at Star Lake公式サイト、スティーラーズはPittsburgh Steelers公式サイト

<p15>Carnegie RoboticsはCarnegie Robotics公式サイト、Predictive OncologyはPredictive Oncology公式サイト

<p17>FIATはFIAT公式サイト、トリノ自動車博物館はMuseo Nazionale dell'Automobile - Torino公式サイト、トリノ2006冬季オリンピックは国際オリンピック委員会（IOC）公式サイト「トリノ2006」、トリノ工科大学はPolitecnico di Torino公式サイト、サヴォイア王家の王宮群はItalia.it公式サイト、Del CambioはDel Cambio公式サイト、EatalyはEataly公式サイト、ユベントスはJuventus Football Club公式サイト。

<p18>Aerospace Logistics Technology Engineering Companyの写真は同社公式サイト、V. Castellani元トリノ市長はscatTO – il fotoblog della Città di Torino、右側の写真のうち上がSociety of Automotive Historians in Britain Ltd公式サイト、左下がFondazione CRT公式サイト、右下がPolitecnico di Torino公式サイト。

<p20>Harley DavidsonはHarley-Davidson公式サイト、Epic SystemsはEMRFinder公式サイト、ウィスコンシン大学マディソン校はUniversity of Wisconsin-Madison公式サイト、ユニテリアン教会はUnitarian Meeting House公式サイト、ファーマーズマーケットはDane County Farmers' Market公式サイト、バジャーズはWisconsin Badgers公式サイト。

<p21>ウィスコンシン大学マディソン校公式サイト及びPyranの公式サイト

<p23>STEM Girl Day at UT Austinの写真はThe University of Texas at Austin公式サイト。トリノの写真はItalia.it公式サイト及びJuventus Football Club公式サイト、オースティンの写真はVisit Austin公式サイト。エクス・アン・プロヴァンスの写真はエクス・アン・プロヴァンス観光局公式サイト及びÉcole Internationale Provence-Alpes-Côte d'Azur公式サイト。沖縄の写真は沖縄科学技術大学院大学公式サイト。

<p24>Harrow International School Appi、アクアマリン福島、富弘美術館、 Rugby School Japan、鶴岡サイエンスパークはそれぞれの公式サイト。東北大学は宮城県の公式サイト。酒蔵は今代司酒造株式会社の公式サイト。

<p25>ピッツバーグはU.S. Steel公式サイト、 Carnegie Robotics公式サイト、 Predictive Oncology公式サイト。トリノはFIAT公式サイト、 Aerospace Logistics Technology Engineering Company公式サイト、Microlino公式サイト。マディソンは Exact Sciences Corporation公式サイト、EMRFinder公式サイト。

<p26>ウィスコンシン大学マディソン校公式サイト

<p27>イリノイ大学はFox Companies公式サイト、トリノ工科大学の写真は上がSociety of Automotive Historians in Britain Ltd公式サイト、左下がFondazione CRT公式サイト、右下がPolitecnico di Torino公式サイト

さあ、街から未来をかえよう



三井不動産
MITSUI FUDOSAN